



応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No. 56

2012 (平成 24) 年 5 月 28 日 (月) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室
TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <http://www.ecesj.com/>
〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田光一, 事務局長 高橋眞彦)

1 はじめに	1
2 三学合同大会『ELR2012 東京』のご案内	2
3 テキスト刊行準備委員会の今後の活動	5
4 2012 年度 第 1 回会誌編集委員会報告	6
5 2012 年度 海外学会派遣研究者の決定	7
6 行事案内	8
6. 1 第 4 回フィールドシンポジウム in 那覇	8
6. 2 応用生態工学会東京セミナー	12
7 事務局より	14
別紙 FAX・E-mail 用参加・発表申込書	15

1 はじめに

今回のニュースレターでは、三学合同大会『ELR2012 東京』のご案内を中心にお届けします。応用生態工学会 (E)、日本景観生態学会 (L)、日本緑化工学会 (R) による三学合同大会は、第 1 回が 2008 年 9 月に九州・福岡市で開催されました。この時の大会は、応用生態工学会が幹事学会となっていて開催しましたが、今回の大会では、日本緑化工学会が幹事学会となり開催されます。

その他の記事として、ただいま当学会が取り組んでおります会員サービスの向上のための 2 つの取り組みをご紹介します。一つは、幹事会で継続審議されてきましたテキスト刊行委員会立ち上げのために設置したテキスト刊行の準備委員会の取り組みです。昨年度より活動を開始しましたので、その近況とテキスト刊行に向けたワークショップのご案内をお知らせします。もう一つの取り組みは、会誌編集委員会が取り組んでいる新カテゴリー「レポート」についての動向をお知らせします。

また、海外学会派遣者決定のお知らせ、「第 4 回全国フィールドシンポジウム in 那覇」のご案内なども併せてお届けしています。

2 三学合同大会『ELR2012 東京』(応用生態工学会 第 16 回大会)のご案内

開催主旨

応用生態工学会 (E), 日本景観生態学会 (L), 日本緑化工学会 (R) は, いずれも「健全な生態系の持続・修復を視野に入れた国土のプランニング」を学界・行政・市民の連携のもとに進めようとする応用を視野に入れた学会です. 三学会ではこれまで, 互いに得意とする異なった場で研究を行って来ましたが, 「森・川・海」と言われるように地球上の全ての生態系はつながっており, つながりの中でしか有効な目標設定と課題達成が行えないことは明白です. 各学会で学会間連携の動きが起こり, 連携実現の第一歩として, 2008 年, 第 1 回三学合同大会「ELR2008 福岡」を開催いたしました. そして今年, 「災害と自然再生」をメインテーマとして, 第 2 回三学合同大会「ELR2012 東京」を開催します.

2.1 大会概要

(1) 日 程

【 2012 年 9 月 8 日(土)～10 日(月)の 3 日間 】

- 9 月 8 日(土) : 各学会委員会等
研究発表会 (口頭発表, ポスター発表)
研究集会, (理事会・幹事会)
- 9 月 9 日(日) : 研究発表会 (口頭発表, ポスター発表)
各学会総会
合同公開シンポジウム
懇親会
- 9 月 10 日(月) : 研究発表会 (口頭発表)
エクスカージョン (一部見学コースは, 11 日 (火) までを予定)

※ エクスカージョンについては, 後日, ご案内いたします.

※ プログラムの詳細は, ニュースレター 57 号および学会ホームページにてお知らせします.

(2) 会 場

東京農業大学 世田谷キャンパス (東京都世田谷区桜丘 1-1-1)

※ アクセス参照 URL : http://www.nodai.ac.jp/access/map_s.html

2.2 参加・発表申込について

(1) 参加・発表申込

・応用生態工学会ホームページの「ELR2012 参加・発表申込フォーム」から,

7 月 10 日 (火) までに, お申し込み下さい. お申込頂いた方には, 折り返し振込等の案内を差し上げますので, それに従って参加料をお振り込み願います.

FAX・E-mail によるお申込は, 別紙『参加・発表申込書』にご記入の上, 下記までお申込下さい.

FAX・E-mail でのお申込	{	申込先 : ELR2012 東京 三学合同大会実行委員会 E-mail : elr2012@jsrt.jp FAX : 03-3818-8282 (幹事学会: 緑化工学会事務局)
------------------	---	--

(2) 参加料

大会参加料 : 正会員・賛助会員 : 5,000 円 (当日参加 : 6,000 円)

学生会員（非会員を含む）：2,000 円

非会員（一般）：10,000 円

※ 大会参加費には、資料代（発表要旨集）が含まれます。

懇親会参加料：正会員・賛助会員・非会員（一般）とも一律 5,000 円

学生会員（非会員を含む） 3,000 円

エクスカージョン参加料：費用は、未定です。支払いは後日となります。

●参加料振込先

ゆうちょ銀行

口座名：ELR2012 東京実行委員会

口座番号：00110-4-750454

(3) 研究発表の申込

研究発表申込の締め切りは、7 月 10 日（火）必着となりますので、ご注意ください。

発表申込み後、要旨原稿を 7 月 20 日（金）までにご提出頂きます。原稿様式、提出方法は、後日連絡いたしますが、A4 用紙で 1 ページを予定しています。

当日のプログラムは、所属学会にかかわらず三学会全ての発表申込から、内容によって振り分けで作成します。発表には校閲はなく、参加・発表申込書と要旨の提出により発表ができます。

発表は、口頭発表とポスター発表に分けられ、どちらで行うかは申込時に選択できます。ポスター発表には、ポスター発表賞が設けられる予定です。

※ 発表者は、応用生態工学会からの申込の場合、正会員（賛助会員を含む）、学生会員である必要があります。なお、連名者については会員・非会員を問いません。

※ 要旨提出者は、大会での発表が義務づけられます。

※ 発表申込数によっては、口頭発表・ポスター発表の選択希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。

2.3 自由集会・研究集会の申込

集会名、代表者名、代表者の所属・連絡先住所・電話番号・FAX 番号・E-mail アドレス、開催希望日時、希望する部屋の大きさ（収容人数）、集会の内容（300～400 字程度にまとめたもの）を、メールにて三学合同大会実行委員会に、ご提出ください。様式は問いません。

※7 月 10 日までにお申し込み下さい。

※ 開催可能日時は、9 月 8 日（土）9：00～12：00、18：00～20：00 と、9 月 10 日（月）の午前中となる予定です。

※ 応募多数の場合には、開催時間・会場など、ご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。

●申込先：ELR2012 東京 三学合同大会実行委員会 E-mail：elr2012@jsrt.jp

2.4 合同公開シンポジウムの開催

三学合同の公開シンポジウムを予定しています。詳細な内容は、現在、三学合同実行委員会で協議中ですので、内容が決まり次第、ホームページ等でご案内いたします。暫定的な内容は、下記の通りです。

テーマ : 災害と自然再生

日時 : 2012 年 9 月 9 日 (日) 14:00~17:45

会場 : 東京農業大学世田谷キャンパス 農大 100 周年記念講堂

趣旨 : 災害復興と自然再生は対立するのか、両立するのか? かつての「経済か環境か」を彷彿とさせる問題が 2011 年の東日本大震災などの大災害を契機に我々に突き付けられています。防災施設や住宅地の整備は地域復興のために切実な課題ですが、ハード一辺倒の整備は大規模な地形改変やエコトーン分断を通して生物多様性を損なうおそれがあります。一方、災害の危険性が高い場所からの集約的土地利用の撤退や事前回避は、長期的に見ると防災のための緩衝帯と自然再生の用地を兼ねた土地を生み出す可能性があります。本シンポジウムでは、以上のような問題意識のもと、防災・減災と自然再生の関係を災害現場の状況を踏まえながら(熱く)議論したいと思います。

2.5 大会に関する各種問い合わせ

(1) 参加・申込に関する問い合わせ先

ELR2012 東京 合同実行委員会 E-mail : elr2012@jsrt.jp (緑化工学会: 中村華子, 橘 隆一)

(2) その他、『ELR2012 東京』に関する全般的な問い合わせ

和歌山大学 中島 敦司 E-mail : nakat@sys.wakayama-u.ac.jp

または、東京農業大学 福永 健司 E-mail : fuku@nodai.ac.jp

(3) ELR2012 東京 三学合同大会実行委員会

三学合同大会実行委員長: 中村 幸人

東京農業大学 地域環境科学部 治山・緑化工学研究室

TEL : 03-5477-2274 (橘 隆一)

E-mail : elr2012@jsrt.jp

※会員の皆様には、大会案内が例年に比べて遅れておりますことを、お詫び申し上げます。

今後の最新情報については、内容が決まり次第、随時、学会ホームページに掲載してまいりますので、ご注目をお願いします。

3 テキスト刊行準備委員会の今後の活動

テキスト刊行準備委員会

第 51 回幹事会で、第 3 次中期計画の骨子の一つである「教科書・入門書・解説書等の刊行」に関する継続審議が行われ、テキスト刊行委員会（仮称）設立のための準備委員会を立ち上げることが決定しています。準備委員会の委員長には、萱場副幹事長が選出され、委員は幹事会メンバーを中心に、元幹事経験者も含めたメンバーで構成されています。

今まで 2 回の準備委員会を開催し、テキストの対象、テキストの内容、発刊までのプロセス等を議論してきました。また、発刊プロセスの一環として広く会員の皆様から意見を徴収するため「テキスト刊行に関するワークショップ」の開催を企画しました。さらに、今年度の ELR2012 東京においても、テキストの内容等について議論する機会を設けたいと考えています。ご興味のある方は是非ともご参加下さい。

＜テキスト刊行に関するワークショップの開催について（ご案内）＞

第 1 回テキスト刊行準備委員会でワークショップの開催がきまり、会員の皆様には 5 月 7 日にメーリングリストにてご案内を差し上げました。直近のご案内となりますが、再度、ご案内いたします。

-----テキスト刊行に関するワークショップのご案内-----

この度、テキスト刊行に関するワークショップを開催し、応用生態工学会で活躍されている皆様から幅広くご意見を伺い、テキストに反映させていきたいと考えております。以下のとおり開催を予定していますので、奮ってご参加下さい。なお、会場の関係から 6 月 6 日までに参加申込をお願い致します。定員になり次第、申し込みを締め切らせて頂きますので、ご了承ください。

■題名： 応用生態工学におけるテキスト刊行に関するワークショップ

■日時： 2012 年 6 月 8 日(金)15:00～17:00 の 2 時間程度

■場所： 「貸会議室 内海」(JR 水道橋駅西口より徒歩 1 分、東京駅より電車で 15 分程度)
東京都千代田区三崎町 3-6-15

貸会議室ホームページ：<http://www.kaigishitsu.co.jp/company/access.html>

■主催： 応用生態工学会

■主旨： 応用生態工学会では、応用生態工学に関する情報を積極的に発信し、学会員へのサービス向上、学会員増加を図ることを目的として、応用生態工学のテキスト刊行を計画しています。また、本計画は応用生態工学会第 3 次中期計画の一つとして位置付けられています。

幹事会では、アンケート調査結果等に基づきながら議論を重ね、テキストの内容等について構想を練ってまいりました。また、平成 24 年 3 月にはテキスト刊行準備委員会を発足させ、テキスト刊行に向けたより具体的な取り組みを開始しています。

本ワークショップでは、テキスト刊行の経緯や考え方をご説明するとともに、テキストの原案を提示し、広く会員の皆様から意見を聴取し、テキストに反映することを目的として開催します。具体的内容は以下のとおりです。

■内容

- ・テキスト刊行の経緯と考え方の説明
- ・テキストの原案の紹介 — 体裁, ボリューム, 目次構成, 出版方法, シリーズの一覧
- ・テキスト作成の方法の説明 — 作業体制等
- ・議論

■参加方法:

参加無料ですが, 会場を確定するために以下の方法で事前登録をお願いします.

- ・登録先 : (独) 土木研究所水河川生態チーム 萱場祐一
- ・登録方法 : y-kayaba@pwri.go.jp まで以下の内容を記載して送信してください.

E-mail タイトルに「テキスト刊行 WS に参加希望」と記載し,

本文には, 氏名・所属を記入して送信してください.

4 2012 年度 第 1 回会誌編集委員会報告

会誌編集委員会

第 1 回会誌編集委員会が, 5 月 14 日(月)に麹町事務所で開催されました. 委員会での審議内容をご報告します.

1) 会誌の発行～編集状況など

- ・旧査読システム (Jstage-2) 上での論文の判定が終わり, 昨年 9 月から運用されている現システム (Editorial Manager) に完全に移行したことが報告されました.
- ・投稿論文について, 以前からの課題である物理・土木寄りの論文の投稿を増やすための方法について今後検討が必要との意見が出されました. 当学会や各地方整備局で実施されている技術発表会などの発表者への働きかけなどが提案されました.

2) 論文種別「レポート」(案) についての議論

2011 年度より, 会誌編集委員会では「会誌の魅力化」について議論しています. その一環として, より現場に即した「事例報告」的な論文種別を新たに設けてはどうかという案について, 昨年度に引き続き検討しました. その結果, 定義や目的, 運用などについて概ね以下のような方向とし, 今後細部を詰めて投稿規程の改訂などを行うこととなりました.

●論文種別名称

「レポート」

●定義 (規程に記載)

「応用生態工学の知見を活用して実施された事業などにおける, 実施上の工夫, 調査結果, 今後の展望や考察などを含むもの」

●新設の目的

- ・「事例研究」や「短報」でも投稿のハードルが高いと思われている状況を改善し、より多くの情報が会誌に投稿され、即応的に会員に伝えること
- ・現場に詳しい事業者やコンサルタントの技術者が投稿しやすい状況を作ること
- ・現場の状況が速報性をもって会員に伝わること
- ・事例のデータベース的な機能を会誌に持たせること
- ・研究プロジェクトやその後の事例研究、原著論文に結びつくような視点・発想を多く得ること
- ・以上を通じて会誌の魅力化を図ること

●運用等今後の検討課題

- ・会誌編集委員会の中にレポート対応チームを作り、査読、掲載の判定を行う体制を検討
- ・「レポート」に記載した内容を、他の論文などにデータを用いる際の扱い（発表済みにしない）

5 2012 年度 海外学会派遣研究者の決定

国際交流委員会

国際交流委員会（五味高志 委員長）では、毎年、海外学会派遣研究者・技術者の募集を行っています。2012 年度も 2 月 29 日～4 月 20 日の期間で学会ホームページやニュースレターでの募集を行い、1 名の方から申込みがありましたので報告します。

1) 応募資格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること（募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする。）
- ② 学生あるいは 35 歳未満の大学・研究機関研究者、技術者を対象とする。

2) 派遣研究員の選考

- ① 2012 年度は、学会としての助成額を 15 万円とし、1 名を選考し派遣する。
- ② 選考にあたっては国際交流委員会において書類審査を行い、候補者を選定した上で理事会に報告する。

3) 派遣後の必要要件

- ① 派遣研究員は、派遣対象の海外学会等の報告を応用生態工学会ニュースレターに投稿掲載する。
- ② 派遣研究員は、関連した研究や技術開発について、和文誌である応用生態工学会誌（原著論文、総説、短報）、もしくは英文誌である Landscape and Ecological Engineering (Original Article, Review, Short Communication) に論文を投稿するものとする。

4) 審議結果

審議の結果、委員全員の一致で、岡田氏の派遣が決まりました。

審議内容として、委員から以下の意見が出されました。

- ・GIS やモデルによる流域スケールでの魚類生息場解析の結果を、どのように現場の河川管理や生息場の保全・再生につなげているのか、北米での事例をニュースレターに紹介することを希望します。

● 2012 年度 海外学会派遣決定者

氏 名	岡田 健吾
所 属	東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 国際環境修復保全学講座 修士 1 年
派遣希望学会	1) 会議名称 : AGU 2012 Fall Meeting 2) 主 催 : American Geophysical Union 3) 開催月日 : 2012 年 12 月 3 日～7 日 4) 開催国 : San Francisco, CA, USA 5) 会議の目的 ① 人類の利益のために地球科学や宇宙科学の発見を推進すること ② 科学者が持続可能な未来に向けて様々な分野で交流し、ともに前進し、コミュニティーを活性化すること ③ 研究者や技術者が最先端のテーマや課題について議論する場を提供すること 6) 会議の内容 本会議は、地球科学、大気科学、海洋科学、水文科学、宇宙科学、惑星科学に関連する研究分野の最新のテーマを取り扱っている。いずれの分野もさまざまなスケールの幅広い領域をカバーしており、毎年、基礎的研究のみならず、生態学や工学などの他分野と融合された研究が数多く発表されている。 7) 現地見学会 : なし 8) 発表予定 : 有り 9) 学会誌への投稿予定 : 有り

6 行事案内

今年度、開催予定の行事について、2 件の案内が届いていますので、ご紹介します。

6.1 2012 年 応用生態工学会第 4 回全国フィールドシンポジウム in 那覇のご案内

応用生態工学会 那覇

宮良 工 ((財) 沖縄県環境科学センター)

#####

沖縄における河川の自然再生とワイズユース

マングローブとリュウキュウアユを健全性の指標として

～考えよう！河川生態系の賢い利用と管理～

#####

観光立県を目指す沖縄において、河川および河口域の自然生態系は貴重な観光資源でもあります。しかし、その健全性が損なわれてきているのも事実です。このシンポジウムでは、沖縄の河川環境の保全・再生に関して、現状の課題、産官学民の協働のあり方、自然再生の取り組み等について議論し、沖縄に適した賢い環境資源の利用と管理へ繋げていきたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

#####

開催日：平成 24 年 7 月 13 日（金）～平成 24 年 7 月 14 日（土）

主 催：応用生態工学会

共 催：（財）沖縄県環境科学センター

#####

＜スケジュール＞

※道路交通状況等により多少の変更を伴う場合があります。ご了承ください。

7/13(金) フィールドツアー

集 合 場 所：おもろまち駅前広場（DFS ギャラリー沖縄北側）

集 合 時 刻：8:30

出 発 時 刻：9:00

解散予定時刻：19:45

現地見学場所：① 奥 川（国頭村）：奥川自然再生事業現場
 ② 慶佐次川（東村）：天然記念物マングローブ
 ③ 億首川（金武町）：億首ダムおよび下流マングローブ観察

7/14(土) シンポジウム 10:00～16:00（開場 9:30）

●基調講演：島谷 幸宏（九州大学大学院教授）：『自然再生を支える視点』

●講 演：立原 一憲（琉球大学准教授）：『沖縄・奄美地方の河川環境とリュウキュウアユの生物学』

赤松 良久（山口大学大学院准教授）：『沖縄島北部奥川における自然再生』

松田 義弘（東海大学名誉教授）：『沖縄地域におけるマングローブ河口の物理過程』

竹村 紫苑（徳島大学大学院博士後期課程）：『河川の流況変化がマングローブ生態系に及ぼす影響』

●パネルディスカッション

コーディネーター：鎌田 磨人（徳島大学大学院教授）

パネリスト：島谷 幸宏（九州大学大学院教授）

立原 一憲（琉球大学准教授）

赤松 良久（山口大学大学院准教授）

松田 義弘（東海大学名誉教授）

外間 慎仁（ふくらしやや自然体験塾/（株）ふくらしやや代表取締役）

神谷 大介（琉球大学助教）

●シンポジウム開催場所

名 称：浦添市てだこホール市民交流室

住 所：浦添市仲間 1 丁目 9-3

URL : <http://www.tedakohall.jp/>

●アクセス

- ・バスご利用の場合 : 那覇バスターミナル発
55 番牧港線, 56 番浦添線 「美術館前」下車徒歩約 5 分
90 番知花線, 98 番琉大線等 「太平」下車徒歩約 10 分
- ・タクシーご利用の場合 : おもろまち駅より 1,500 円程度
古島駅より 1,000 円程度

7/14(土) 交流会 18:00～

会 場 : 沖縄ナハナホテル&スパ 2 階レストラン「琉璃庵」

住 所 : 那覇市久米 2-1-5

URL : <http://www.ishinhotels.com/okinawanahana/jp/>

アクセス : 旭橋駅徒歩約 5 分 那覇バスターミナル徒歩約 10 分

#####

参加料 (当日受け付けで頂きます)

フィールドツアー : ¥2,000-

シンポジウム : ¥1,000-

交 流 会 : ¥4,000-

募集人数

フィールドツアー : 30 名程度 (先着順)

シンポジウム : 120 名程度

お申し込み

6 月 30 日までに電子メールもしくは FAX でお申し込み下さい.

E-Mail : ouyouseitainahafs2012@gmail.com

FAX : 098-895-8677 (琉球大学工学部環境建設工学科内/担当神谷)

応用生態工学会・那覇

〒901-2111 沖縄県浦添市経塚 720

(一般財団法人) 沖縄県環境科学センター・総合環境研究所/ 宮良

TEL : 098-875-1941

【暫定版 5月25日】

平成24年度 応用生態工学会 全国フィールドシンポジウム in 那覇



沖縄における河川の自然再生とワイズユース マングローブとリュウキュウアユを健全性の指標として ～考えよう!河川生態系の賢い利用と管理～

《フィールドツアー》

- 日時：平成24年 7月13日（金） 出発8:30 / 解散 19:30（予定）
- 集合場所：那覇市 おもろまち駅前広場（DFS ギャラリー沖縄 北側）

- ① 奥川：奥川自然再生事業の現場視察 ② 慶佐次川：天然記念物マングローブ観察
③ 億首川：億首ダムおよび下流マングローブ観察

《シンポジウム》

… 基調講演 …

島谷 幸宏 / 九州大学大学院教授
「自然再生を支える視点」

… 講演 …

立原 一憲 / 琉球大学准教授
「沖縄・奄美地方の河川環境とリュウキュウアユの生物学」

赤松 良久 / 山口大学大学院准教授
「沖縄島北部奥川における自然再生」

松田 義弘 / 東海大学名誉教授
「沖縄地域におけるマングローブ河口の物理過程」

竹村 繁苑 / 徳島大学大学院 博士後期課程
「河川の流況変化がマングローブ生態系に及ぼす影響」

… パネルディスカッション …

コーディネーター 鎌田 磨人 / 徳島大学大学院教授

- 日時：平成24年 7月14日（土） 10:00～16:00（開場9:30）
- 会場：（浦添市） てだこホール / 市民交流室 沖縄県浦添市仲間1丁目9-3

《交流会》 会場： 沖縄ナハナホテル&スパ 2階 レストラン「琉璃庵」（18:00より）

申込方法：6月30日（土）までに、電子メールかFAX（裏面）にて申し込みください。



主催：応用生態工学会

共催：（一財）沖縄県環境科学センター

平成24年(2012年) 応用生態工学会 第4回 全国フィールドシンポジウム in 那覇

観光立県を目指す沖縄において、河川および河口域の自然生態系は貴重な観光資源でもあります。しかし、その健全性が損なわれてきているのも事実です。このシンポジウムでは、沖縄の河川環境の保全・再生に関して、現状の課題、産官学民の協働のあり方、自然再生の取り組み等について議論し、沖縄に適した賢い環境資源の利用と管理へ繋げていきたいと考えております。

《 講演者等紹介 》

島谷 幸宏 (基調講演・パネリスト)

応用生態工学会理事 アザメの会顧問
国土交通省多自然川づくり研究会座長
奥川自然再生協議会アドバイザー 等

立原 一憲 (講演・パネリスト)

奥川自然再生協議会アドバイザー
リュウキュウアユを蘇生させる会事務局長 等

赤松 良久 (講演・パネリスト)

奥川自然再生協議会アドバイザー
山口県土木建築部技術アドバイザー 等

松田 義弘 (講演・パネリスト)

日本マングローブ学会副会長
日本水産工学会理事 等

竹村 紫苑 (講演)

マングローブ林の持続的利用に向けた生態系管理
手法の構築に関する研究に従事

鎌田 磨人 (コーディネーター)

みなみから届ける環づくり会議議長
生物多様性とくしま会議共同代表 等

外間 慎仁 (パネリスト)

ふくらしゃや自然体験塾/(株)ふくらしゃや 代表
取締役 等

神谷 大介 (パネリスト)

琉球大学工学部助教 沖縄県公園審議会座長
沖縄県長期水需給計画調査検討委員会副委員長 等

《 シンポジウム会場案内 》



- 【バス利用の場合/那覇バスターミナル発】 ●
- ・90番(知名線)98番(琉大線)で【大平バス停】にて下車、徒歩10分。
- ・56番(浦添線)は【美術館前バス停】にて下車、徒歩5分
- ・55番(牧港線)【美術館前バス停】にて下車、徒歩5分

《 参加費・受付人数 》

フィールドツアー	参加費: ¥2,000	受付人数: 30名程度	(先着順・事前予約制)
シンポジウム	参加費: ¥1,000	受付人数: 120名程度	(当日参加も可能ですが、席に限りがあります)
交流会	参加費: ¥4,000		(事前予約制)

申込みフォーム (FAX用)

応用生態工学会・那覇 行 (担当: 神谷)

FAX番号: 098-895-8677 (琉球大学工学部 環境建設工学科 内)

氏 名		
連絡先	(〒 -)	
	電話番号:	
	E-mail:	
参加される行事に ○を付けてください	フィールドツアー	
	シンポジウム	
	交流会	

* 電子メールでお申し込みの場合は、上記の必要事項をご記入の上、ouyouseitainahafs2012@gmail.com までお願いします。

* ご連絡を頂きました個人情報は、シンポジウム関連のお知らせ以外には使用いたしません。

6.2 応用生態工学会東京セミナー『河川生態系の多様性と管理』

応用生態工学会 東京
久保市 浩右 (応用地質(株))

7 月 13 日 (金) に、応用生態工学会東京のセミナーが開催されるのでご案内します。

+++++

開催日時 : 平成 24 年 7 月 13 日 (金) 15:00~17:00

開催場所 : 埼玉県さいたま市 埼玉大学 総合研究棟 1F シアター教室

テーマ : 河川生態系の多様性と管理

招聘講師 : James Thorp 教授, Thomas Hein 教授

参加費 : 会員・賛助会員: 2,000 円, 非会員: 3,000 円, 学生: 0 円

開催概要 : 河川環境改善は世界的な課題であり、そうした試みはわが国に限ったわけではない。特に、アメリカやヨーロッパにおいては、わが国に先んじて様々な試みが行われてきている。わが国において、そうした事業に関わる者にとって、そうした事例に触れることは極めて重要である。本講演会においては、国際河川科学学会 (International Society of River Science, ISRS) を支えてきた James Thorp 教授および Thomas Hein 教授の 2 名の著名な研究者を招待し、特に、河川の総合エコシステムに関するもの、および、ドナウ川の氾濫原の自然再生について講演をいただき、わが国においてそうした事業に携わっている者、及び今後を担う学生との間で議論を行おうとするものである。

両講演者の講演タイトルは以下のとおりである。

① Professor James Thorp (Kansas Biological Survey and University of Kansas)

The Riverine Ecosystem Synthesis: Fundamental Research and Management Applications

② Thomas Hein (Wasser Kluster Lunz and University of Natural Resources and Applied Life Sciences Vienna)

Ecological effects of floodplain restoration along a large European river, the Danube

※同時通訳を予定

※終了後懇親会を予定

なお、国際河川科学学会は、応用生態工学会と同様の趣旨で設立された学会であり、James Thorp 教授は、前 ISRS 会長、Thomas Hein 教授は、ISRS の企画するジャーナル River Systems の Editor-in-Chief である。

応用生態工学会東京セミナー

河川生態系の多様性と管理

河川環境改善は世界的な課題であり，そうした試みはわが国に限ったわけではない．特に，アメリカやヨーロッパにおいては，わが国に先んじて様々な試みが行われてきている．わが国において，そうした事業に関わる者にとって，そうした事例に触れることは極めて重要である．本講演会においては，国際河川科学学会(International Society of River Science, ISRS)を支えてきた James Thorp 教授および Thomas Hein 教授の 2 名の著名な研究者を招待し，特に，河川の総合エコシステムに関するもの，および，ドナウ川の氾濫原の自然再生について講演をいただき，わが国においてそうした事業に携わっている者，及び今後を担う学生との間で議論を行おうとするものである．

■日 時:平成 24 年 7 月 13 日(金) 15:00～17:00

■場 所:埼玉大学総合研究棟 1F シアター教室

■参加費:一般会員¥2,000 (非会員¥3,000) 学生無料 (懇親会は別途)

■プログラム:(通訳あり)

○講演 1 The Riverine Ecosystem Synthesis ～統合的河川生態学～

ジェームス・ソーブ博士 (アメリカ Kansas 大学 教授)

○講演 2 Ecological effects of floodplain restoration along a large European river, the Danube

～Danube 川で実施された氾濫原復元の生態学的な影響～

トーマス・ヘイン博士 (オーストラリア Wien 大学 準教授)

○質疑応答

●終了後懇親会開催予定 場所: 埼玉大学構内

7 事務局より

7.1 今後の予定

5 月 22 日～5 月 28 日	第 52 回幹事会(メール会議)
5 月 28 日 (月)	ニュースレター56 号 発行
6 月 7 日 (木)	第 61 回理事会
6 月 8 日 (金)	「テキスト刊行に関するワークショップ」開催
7 月 10 日 (火)	三学合同大会『ELR2012 東京』 参加・発表申込 締め切り
7 月 13 日 (金)	応用生態工学会東京セミナー「河川生態系の多様性と管理」開催
7 月 13 日～14 日	全国フィールドシンポジウム in 那覇 開催
7 月 20 日 (金)	三学合同大会『ELR2012 東京』 発表要旨 締め切り
7 月下旬	会誌「応用生態工学 Vol. 15-1」発行予定
7 月下旬	第 53 回幹事会 開催予定
8 月 1 日 (水)	第 16 回総会委任状 配信
8 月上旬	第 62 回理事会 開催予定
8 月中旬	ニュースレター57 号 発行 (大会プログラム)
8 月下旬	三学合同実行委員会 開催予定
9 月 8 日 (土) ～ 10 日 (月)	三学合同大会『ELR2012 東京』開催 第 16 回総会 開催 第 54 回幹事会・第 63 回理事会合同会議 開催
11 月 9 日～10 日	第 11 回北陸ワークショップ in 石川 開催
12 月上旬	ニュースレター58 号 発行 (大会特集)
12 月下旬	会誌「応用生態工学 Vol. 15-2」発行予定
1 月中旬	第 55 回幹事会 開催予定
2 月上旬	第 64 回理事会 開催予定
2 月下旬	ニュースレター59 号 発行 (大会特集)
3 月 31 日	2012 年度終了

7.2 メールアドレス登録のお願い

本ニュースレターは、学会ホームページにアップロードした PDF ファイルの URL を、登録頂いたメールアドレスに送信していくこととなっております。

新たにメールアドレスを登録する場合は、下記の学会ホームページからお知らせ下さい。

● 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

[2012 年 5 月 28 日現在会員数]

名誉会員： 4 名

特別会員： 1 名

正 会 員： 1, 127 名

学生会員： 96 名

合 計： 1, 228 名

賛助会員： 26 法人 (39 口)

別 紙

2012 年 7 月 10 日 〆切

Fax 送付先: 03-3818-8282

Email 送付先 elr2012@jsrt.jp

ELR2012 東京 参加・発表申込書

次のいずれかに○を記入するとともに、以下の空欄に必要事項を記入して下さい。ご記入いただいた個人情報につきましては、大会運営に関わる事務処理にのみ使用し、第三者への開示、提供はいたしません。

- () 日本緑化工学会経由で申し込みます。(賛助会員構成員は会員としてお申し込み下さい。)
- () 日本景観生態学会経由で申し込みます。
- () 応用生態工学会経由で申し込みます。
- () 上記の学会を経由せずに申し込みます。(非会員用)

※発表者はいずれかの学会員に限ります。

氏 名			
連 絡 先	所 属		
	電 話	— —	() 自 宅 () 勤 務 先
	ファックス	— —	() 自 宅 () 勤 務 先
	E-mail		
参 加 費 種 別 (○を記入して下さい)		() 会 員	() 一 般 () 学 生
懇 親 会 (○を記入して下さい)		() 参 加	() 不 参 加

【発表申込 — 該当者のみ記入して下さい —】

タ イ ト ル	
発 表 概 要 (150 字程度)	
発 表 形 式	() 口 頭 () ポ ス タ ー () どちらでも可

発表概要は、本大会におけるプログラム編成に使用するため、公開はいたしません。また、口頭発表を希望する方には、ポスター発表に変更していただく場合があります。

【備考欄 — 請求書・領収書の発行などご要望があれば記入して下さい —】

--